

2025 年 10 月 14 日

香港での福岡県産品と観光を組み合わせたプロモーションについて

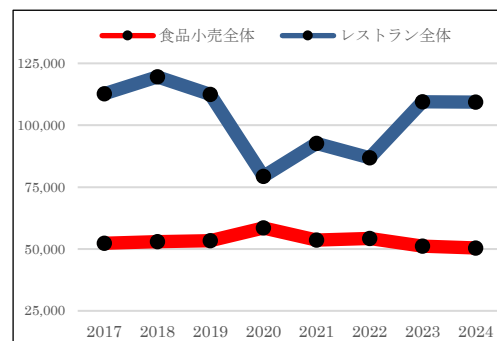
香港事務所長 山本 大祐

1. 香港での日本産食品の現状

日本から世界全体への農水産物・食品（以下、「日本産食品」という）の 2024 年の輸出額は、前年比 3.7%増の 1 兆 5,073 億円と過去最高を記録した。このうち、香港への輸出額は 2,210 億円であり、国・地域別でみると、香港はアメリカに次ぐ 2 位を維持しており、依然として有望な輸出先である¹。

しかしながら、他の主要輸出先である中国本土や米国と比較して人口に対する輸出額が非常に大きいことから、これ以上、日本産食品を輸出する余地がない「飽和市場」と言われることが多い。

さらに、香港の食品小売店及びレストランの年間売上高も、依然としてコロナ禍前の水準を回復できず、北上消費などの香港住民の消費の変化もある。このことから、他国産及び他県産との差別化が可能な商品をどのように継続的に P R していくかが重要であるため、その点について検討したい。



【表 1】香港の食品小売店及びレストランの年間売上高
(単位：百万香港ドル (約 2,000 万円))
出典：香港政府統計処

2. 従来のプロモーション手法

香港での日本産食品の P R といえば、小売店での販売促進やレストランでの期間限定でのご当地メニューの提供が主なものである。これらの取組はその P R 期間中は一定の販売量が見込めるものの、期間終了と共に棚に商品が並ばなくなる、レストランのメニューから消えるものがほとんどである。

継続的に輸出するには、卸売業者、小売業者及び消費者に商品の特徴やコストパフォーマンスだけでなくその商品の誕生した背景などを知っておいても

¹ 香港経済新聞：<https://hongkong.keizai.biz/headline/2496/>

らう必要があると考えている。

3. 新たなプロモーション手法と今後の展望

当事務所は、昨年度、食と観光を同時にPRする取組を支援した。この取組では、久留米観光コンベンション国際交流協会と共同で、香港の和食店において、香港人インフルエンサーが久留米の日本酒やあまおう等と観光地を同時にPRするイベントを開催した。出席者は香港の大手旅行会社役員、大手レストランチェーン店の日本酒責任者及び小売店の調達担当者のほか、香港の一般人にも開放された。店内では久留米産のあまおうや日本酒、郷土料理が振舞われるなか、久留米を実際に訪れた香港人インフルエンサーによる観光地紹介も行われ、大勢の人でにぎわった。このイベントは香港及び日系の新聞やジェトロ短信で報道されたほか、小売店、旅行代理店等から高評価を受けた。



【写真1】日本酒やあまおう等と観光地を同時にPRするイベントの様子

今年度はPRと同時に、日本酒及びあまおう等を扱う輸入業者に、小売店業者やレストラン業者との商談を同会場内で実施してもらうことで、輸出拡大につなげたいと考えている。

また、香港からの観光客に福岡で直接商品の魅力を知ってもらい、香港で継続的に購入してもらうために、香港内の富裕層を中心に会員数が5万人いるECサイトにて、福岡で利用できる限定クーポンや工場見学などができる体験プランチケットを配布する予定である。あわせてサイトで販売する商品について、その生まれた背景や、商品のお勧めの調理方法などの動画もサイトに掲載するなど、消費者にその商品をより深く知ってもらえるような手法を用いて、輸出拡大に取り組むこととしている。このような取組により、人気商品はECサイトで定番商品として継続取引が可能になり、香港内の他の小売店への販路拡大が期待される。

当事務所では、香港の食品輸入業者、卸売業者及び小売店などとのネットワークを有している。香港での県産品・観光PRにご関心があれば、ぜひお気軽にお問い合わせいただきたい。

※為替レート 1 香港ドル=20 円